

F-1 : 産官学金連携

開催日時・会場 9月19日（水曜日）15:50-17:20 402(4階)

大学と自治体の連携強化を目指して

本セッションは、公立大学が取り組む自治体との連携プロジェクトに焦点を当て、各機関にてプロジェクトを担当している実務家の目線から、現実的に直面しがちな課題等を共有し、解決に向けて議論します。

公立大学は地域の知的拠点、シンクタンク的な機関として存在感を示し、教育研究の成果を地域に還元することを期待されています。地域社会発展への貢献という使命を達成するため、研究活動を支援する専門人材は、プロジェクトの創生から進捗管理、プロジェクト成果の利活用に至るまで、研究者と自治体の間に入って細やかな調整を行い、かつ、全体を俯瞰してマネジメントを行う能力が求められています。

本セッション前半では、各大学の産学公連携の好事例をご紹介します。後半ではプロジェクト目標の達成と成果の活用を分離しプロセス毎に検討する等、各プロセスでの研究活動支援人材に求められる機能について会場の参加者の皆様と課題を共有し、解決に向けた可能性を議論したいと考えています。もちろん公立大学に所属する方だけでなく、地域課題解決型プロジェクト等の地域連携事業に取り組む皆様に、何か1つでも日々の業務のヒントをお持ち帰りいただけたら幸いです。

オーガナイザー

諏訪桃子 : 首都大学東京・URA室・主幹URA

東京大学大学院農学生命科学研究科修了。食品素材メーカー勤務を経て、国立大、TLOで技術移転、外部資金獲得支援をはじめとする産学連携業務全般に従事してきた。2017年より現職。

講演者

林 久善: 大阪市立大学・社会連携課・課長

1983年に大阪市役所に就職、区役所勤務を経て、市民局、協働まちづくり室、市政改革室、区政支援室などで市民活動団体との協働などの政策部門に従事し、2017年大阪市役所を退職して大学に転職し現職2年目の新人です。対話と議論でそれぞれの主体がつながり、理解や共感、発見、アイデアなどをひきだしながら、答えがカタチになるように努めています。

佐藤 暢: 高知工科大学・研究連携部・研究連携専門監

1995年京都大学理学部卒業。民間気象情報会社、技術経営コンサルティング、国の研究開発支援機関などを経て、2013年に高知工科大学入職。専門は組織間関係論、産学官民連携論、地域経済論、中小企業論。産学連携や研究支援業務に携わる傍ら、産学官民連携による地域イノベーション創出のありように関する研究を進めている。気象予報士(1998)、中小企業診断士(2003)、博士(学術)(2015)。

西川 洋行: 県立広島大学・地域連携センター・准教授

東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了、博士(理学)
民間企業で研究開発部門に勤務の後、九州大学知的財産本部にて産学官連携の業務に従事。大分大学准教授を経て現職。
広島県内の9市区町や6金融機関等との連携を担当する一方、安芸高田市での産業人材育成事業「あきたかたコンソ」には直接参画し企画運営等に関与。産学官連携に係る事例研究を行うと共に、コーディネータやURAの役割・機能に関する研究も行っている。